

ついでにミニネットコーナー

ミニネット
No.24

子どもを「追い込む」方法

挙手などをさせる時、子どもに「挙手をしてもしなくても評価は同じ」と思わせてはいけません。そのような状況を許すと、子どもは「同じなら手を抜こう」と考えてしまふ危険性があります。

例えば、「今日の授業で学んだことは何か、隣同士で意見を交流しなさい。できたら着席しなさい」と指示したとします。この後全員が着席したら、全員が「意見をもって」いる「はず」です。それなのに「では意見が言える人？」と聞き、挙手した数名にのみ発言させていませんか。

そんな時は、次のようにして子どもを追い込みます。

【優しいバージョン】

「では意見が言える人？」(数名しか挙手しない)

「あれ？ 意見が言えない人？」(おそらく誰も挙手しないでしょう)

「もう一度聞きます。意見が言える人？」(これで全員挙手するでしょう)

【厳しいバージョン】

「では意見が言える人？」(数名しか挙手しない)

「今、挙手しなかった人は立ちます」「君たちは意見を交流し合ったから着席したはずなのに、自分の意見が言えないのはなぜですか？ 理由を聞かせてください」「もう一度聞きます。意見が言える人？」(これで全員挙手するはず)

子どもは、教師の指導の甘さについて「怠ける名人」で、教師が隙を見せたら一気に崩れていきます。



イラスト | 吉田朋子